

# 「特別の教科 道徳」の導入に向けた提案

## 「特別の教科 道徳」の導入に向けた取組

考え・議論する道徳授業を中核とし、「総合道徳プロジェクト」を推進する前川小

### ◆所属・提案者（◎代表者）

川口市立前川小学校

◎ 大 高 珠 恵・ 矢 作 信 行

### ねらい

本校の児童は素直であるが、問題解決能力やコミュニケーション能力が弱い。問題意識をもち、主体的に学び合う児童の育成が課題である。また、これまで領域であった道徳が、小・中学校において「特別の教科 道徳」として新たなスタートをきる。そこで、本校では道徳の授業を中核とし、教育活動全体を通じて行う「総合道徳プロジェクト」に取り組んでいる。道徳教育を通して、主体的に学び合い、社会の一員として問題意識をもつ児童を育成することがねらいである。「総合道徳プロジェクト」とは、学校行事や各教科・領域と道徳とを関連付けて推進する道徳教育のことである。「特別の教科 道徳」を導入するために、学校全体の組織や行事をプロジェクト化する。道徳を「総合道徳プロジェクト」の視点でとらえ、考え・議論する道徳の授業を展開する。また、地域・家庭と連携したり豊かな体験活動を取り入れたりすることで道徳教育を中核とした社会に開かれた教育を推進する。

### 実践時期・期間

1年間を通して行う。

### 実践内容

#### ①学校・学年・学級プロジェクトプランの作成

学校長のスクール・マネジメントプランを受け、道徳教育を中心とした学年経営や学級経営案を図式化し、ねらいの明確化・プロセスの具体化を図る。【資料1】

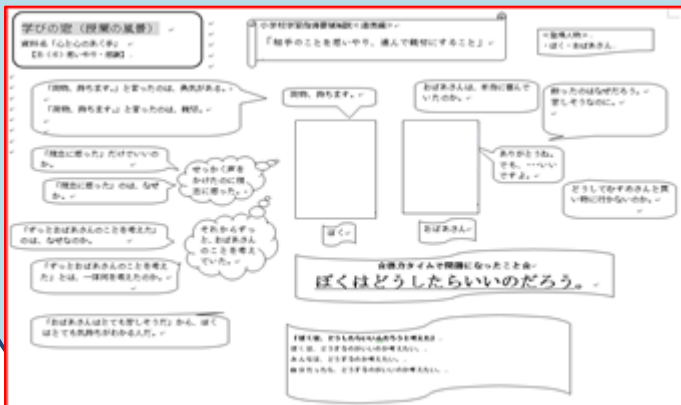
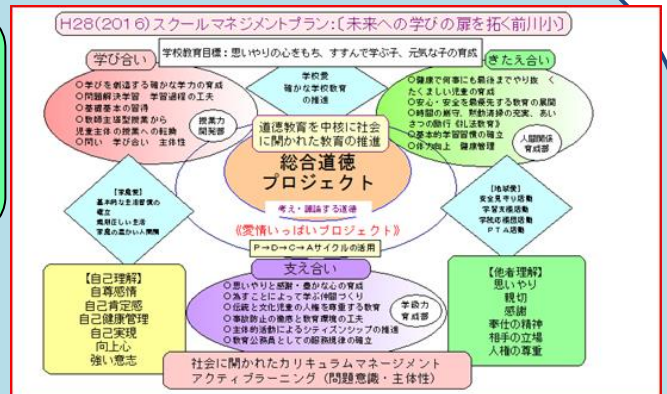
#### ②カリキュラム・マネジメントの工夫

- (1) チャレンジタイムに道徳力向上タイムを位置付ける。児童はこれから学習する道徳の教材文を予め読み、道徳的問題を自らもつ。これを生かして授業を行う。
- (2) チャレンジタイムに学級力向上タイムを位置付ける。児童は、自分の学級の道徳的問題点について話し合い、のびのびタイムで実践する。

【資料2】

#### ③授業スタイルの改革

- (1) これまでの道徳的心情のみを迫及する学習スタイルからの脱却を図る。
- (2) 児童の問題意識を中心とする学習過程を工夫する。児童の疑問を問題化し、資料吟味表（「授業の風景」）を作成する。【資料3】
- (3) 3つの問題解決的な学習過程のスタイルを取り入れる。
  - ア、行為の善し悪しを考える…判断した根拠をもとに議論する。
  - イ、テーマを追求する…児童の話し合いからテーマを追求する。
  - ウ、解決方法や対応を考える…論点を明確にして議論する。【資料4】



#### ④ 研修体制の整備

- (1) 授業開発部… 主体的に問題解決を行う道德教育の推進【資料5】
  - ア、問題意識をもたせる視点・考える視点・議論する視点から児童に力をつけさせる。
  - イ、話し合いの6つのルールの確認をする。
- (2) 人間関係育成部… 思いやりを大切に、よりよい人間関係の育成を目指す【資料6】
  - ア、規律に関わる取り組み
  - イ、主体的な児童の活動
  - ウ、地域との関り
- (3) 学級力向上部… 学級力向上を通じて自治的・支持的な風土をつくる【資料7】
  - ア、SCT（スマイルクラスタイム）を使って、学級力アンケートを実施する。
  - イ、学級会・SCTでアンケート結果を用いた話し合いをする
  - ウ、学級活動やのびのびタイムを使った活動と振り返りをする。

#### 【成果】

- ・プロジェクト化したことにより、具体的な指導の道筋が明確になる。
- ・道德の授業と日常の道德教育・学校行事等との一体化が視覚的にとらえられる。
- ・問題解決的な学習過程を工夫したことにより、考え・議論する道德への基盤ができる。

#### 【課題】

- ・9年間を見通し小中連携を深め、主体的に学び、社会の一員として問題意識をもつ児童生徒の育成を図る。
- ・評価をどのように具体的に取り入れていくのかを検討する。
- ・具体的な実践を通して、地域に開かれた道德教育をさらに深める。

#### 実践の成果や課題

#### こうすればより高い効果が得られる方策など

- ① 体験的な学習を取り入れる。（車椅子体験・アイマスク体験・高齢者体験など）
- ② 地域との連携を図る。（川口市福祉センターや特別支援学級、地域町会との交流活動・学校応援団活用など）
- ③ 学校行事や他教科と関連付けた体系的な道德教育を展開する。【資料8】

#### セールスポイント

- ① 考え・議論する力がつく。  
道德教材をもとに児童自身が課題を設定するので、道德的価値について問題意識をもち、自分の考えを深め、主体的に議論し、学び合うことができる。（主体的・対話的な学びができる。）
- ② 学級力が向上する。  
自分の学級の問題を認識し、解決しようとするすることで、よりよい学級をつくらうとすることができる。
- ③ 豊かな心を育成する。  
友だちの意見を聞いたり、体験的活動をしたりすることから相手の立場に立って考えようとするすることができる。

#### 失敗しないための方策

授業を行う事前準備として、「価値分析表」（授業で扱う価値について深く検討し図式化したもの）・「授業の風景」（児童が話し合いたいと思ったところをまとめたもの）・「心の泉」（その授業で扱う道德的価値を教育活動全体でどう学ばせるかをくわしくまとめたもの）を作成する。

【資料9】【資料3】

#### 他校で導入するポイント

- ① 教材文・発問・授業スタイルの工夫  
ねらいに合った教材を開発することがポイントである。副読本にある教材をそのまま使う場合もあるが、オープンエンドがよい場合は、教材文の途中までを児童に渡すなどの工夫が必要である。
- ② 授業時数の工夫  
初めは児童が学習問題をつくるのに時間がかかるので、2時間続きで授業を実施するなどの工夫が必要である。

#### 外部有識者からのコメント

道德の組織的・計画的な授業改善に積極的に取り組んでいる。特別の教科道德の導入に伴い、教育活動全体を通し道德教育の推進を試みている価値ある実践である。教科指導、特別活動、総合的な学習の時間との関連を学年ごとの総合道德プロジェクトプランを作成し展開を図っている。